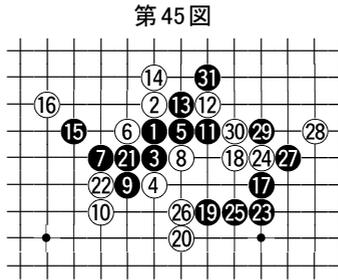


# 松月定石の一研究 (6)

九段 河村典彦

今回はこの白14の防ぎについて調べてみたい。この白14は見るからに「上辺には進出させません」と主張している防ぎである。そうになると、必然的に黒は下辺に展開しなければならぬ。ただし、やみくもに展開しても勝てないので、ちよつとした工夫が必要となる。

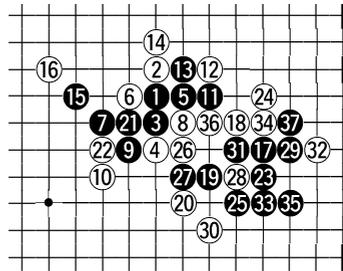
【第45図】まずはいつものように黒15と一本引いておくのが良いだろう。引いた方に止められるが、いわゆる逆引きなので、こうしておいて下辺への利きを狙うのである。また、21の引きを絶対(22止め)としているのも効果としてある。21はいつでも引けるので保留しておく。そこで黒17と開くのが絶好の一手である。白18は最強防なのだが、それに対する黒19が今回の主眼の一手となる。他の手でも勝ちがあるとは思いますが、この手は松月定石特有の「つかみどころのない」着手である。白の防ぎを順次調べてみよう。



【第46図】まずは白20の剣先止め。前にもやったように浮かし止めはすこぶる強い。しかし、この場合は黒21と保留しておいた三を引き、黒23と見せれば案外すんなり勝ちが出る。白24と止めるのが強そうだが、黒21の効果で、黒27と引ければ簡単である。白24は焦

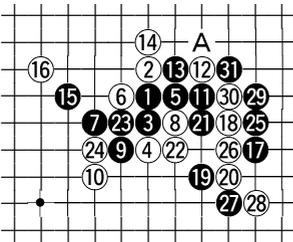
べてみよう。

第46図



れば良い。

【第47図】次は白20の防ぎを考えてみよう。黒21からはいろいろな攻め筋がありそうだが、結果的にはこの21が一番わかりやすそう。このフクミ手を止める手はいろいろあるが、次に黒26と打てば



両勝ちがあり、それを考えると白22しか防ぎがない。こういう研究のいい所は、防ぎ方も学べることである。研究を重ねていくと自然と防ぎも勉強することができる。さて、この白22にも今度は黒25が両ミセとなる。ただし、白26でノリ手があり、簡単と思つていると思わぬ防ぎに足をすくわれることになるので注意したい。

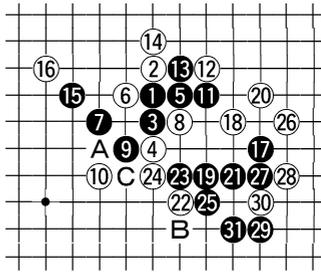
黒27と止めればようやく勝ちが見えてくる。黒31と上下でノリ手を強引に押さえ

点止めの方が強いことがわかる。そこで白24の止めに対しては、黒25とミセるのが妙手となる。白26と止められて盤端に追い込まれるように感じるが、意外とまだ広いスペースが残っている。黒27で連を一つ使つても、黒29と引ければ上下どちらに止められても勝てる。

白30には黒31から順次引いていくスペースがある。白32を反対なら四追いだし、白30を反対なら、黒35とミセ

てようやく完全な勝ちが決まる。

第48図

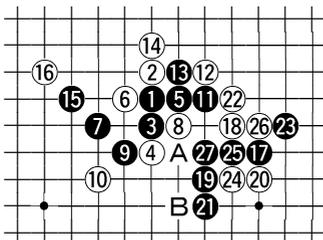


【第48図】白20は剣先を止めると共に上辺への進出を完全に断つた一手で、黒はこれから1/4のスペースで勝たなければならぬ。その第一歩が黒21のミセ手である。白22の浮かし止めが相変わらず最強防だが、ここで斜めの三を引かなかった効果が表れる。黒23の三に対し白24を反対に止めると以下A、B、Cで四三となる。Aとトビ三で使えるのがポイントで、絶対の三引きでも引かずに我慢した方がよいという事例でもある。松月定石においては三でさえ決めない方がよいことが多い。それだけ石を効率良く使わないと勝てないということでもある。

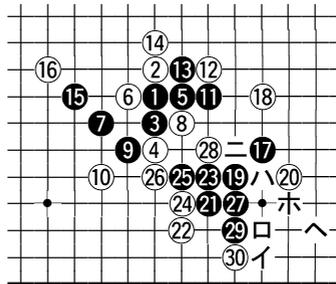
さて、黒は25と引ければあととはもう難しい所はない。白26を反対止めも読者の皆様なら応用力で勝てるであろう。なお、白20を一路左でも一路下でも、同じように黒21とミセれば良い。

【第49図】白20はふんわりとしているが意外な急所でもある。この手に対しては、今度は黒21と含むのが良いだろう。白も22とこの剣先を止めるしかないが、ここでは先に黒23と打っておくのが詰連珠的ではあるが後の事を考えた一手。この手で先にノリ手を押さえておけば、黒25、

第49図



第50図



27が間に合うという狙いである。ただし、黒25で先に27を打ってしまうと、白28をAに止められ黒Bの四三が見事にノル(白26をAなら黒Bが間に合う)。本当に一手の間違いは大きく、勝ちだと思っても再度打つ前に確認しておきたい。

【第50図】最後に白18の変化をやっておこう。白18とこちらの剣先を止める手も強いことには変わりがない。しかし、これまで培った知識を生かせばさほど難しい所はない。いろいろ勝ち方はあるだろうが、黒19と好形に構えておく手が良いだろう。白20を中に入る手はこれまでの変化に戻るもので、20と外から止める手が白の一工夫だ。対して黒は21、23と大きく構えて万全。白24と防ぐのがこの形では最強防だが、やはり黒25と引けば、白26と止めざるを得ないのが白の辛い所。これも斜めの三を保留している効果である。黒27がとどめの含みで、白28はどこに止めても五十歩百歩である。例えば白28なら黒31よりイ〜へまで。

【第50図】最後に白18の変化をやっておこう。白18とこちらの剣先を止める手も強いことには変わりがない。しかし、これまで培った知識を生かせばさほど難しい所はない。いろいろ勝ち方はあるだろうが、黒19と好形に構えておく手が良いだろう。白20を中に入る手はこれまでの変化に戻るもので、20と外から止める手が白の一工夫だ。対して黒は21、23と大きく構えて万全。白24と防ぐのがこの形では最強防だが、やはり黒25と引けば、白26と止めざるを得ないのが白の辛い所。これも斜めの三を保留している効果である。黒27がとどめの含みで、白28はどこに止めても五十歩百歩である。例えば白28なら黒31よりイ〜へまで。

その他の白18ももちろん防ぎとしてはあるが、今までの知識を応用すれば解けるものばかりである。肝心なのは、主な防ぎの勝ち方をマスターすることである。実戦でそのままの局面が出ることはあまりない。むしろ知識を生かして応用力で勝つことの方が多いだろう。また、勝ち方を忘れてしまう場合もあるが、その際も主要の勝ち方を身につけておけば、打っている時に案外思い出すものである。